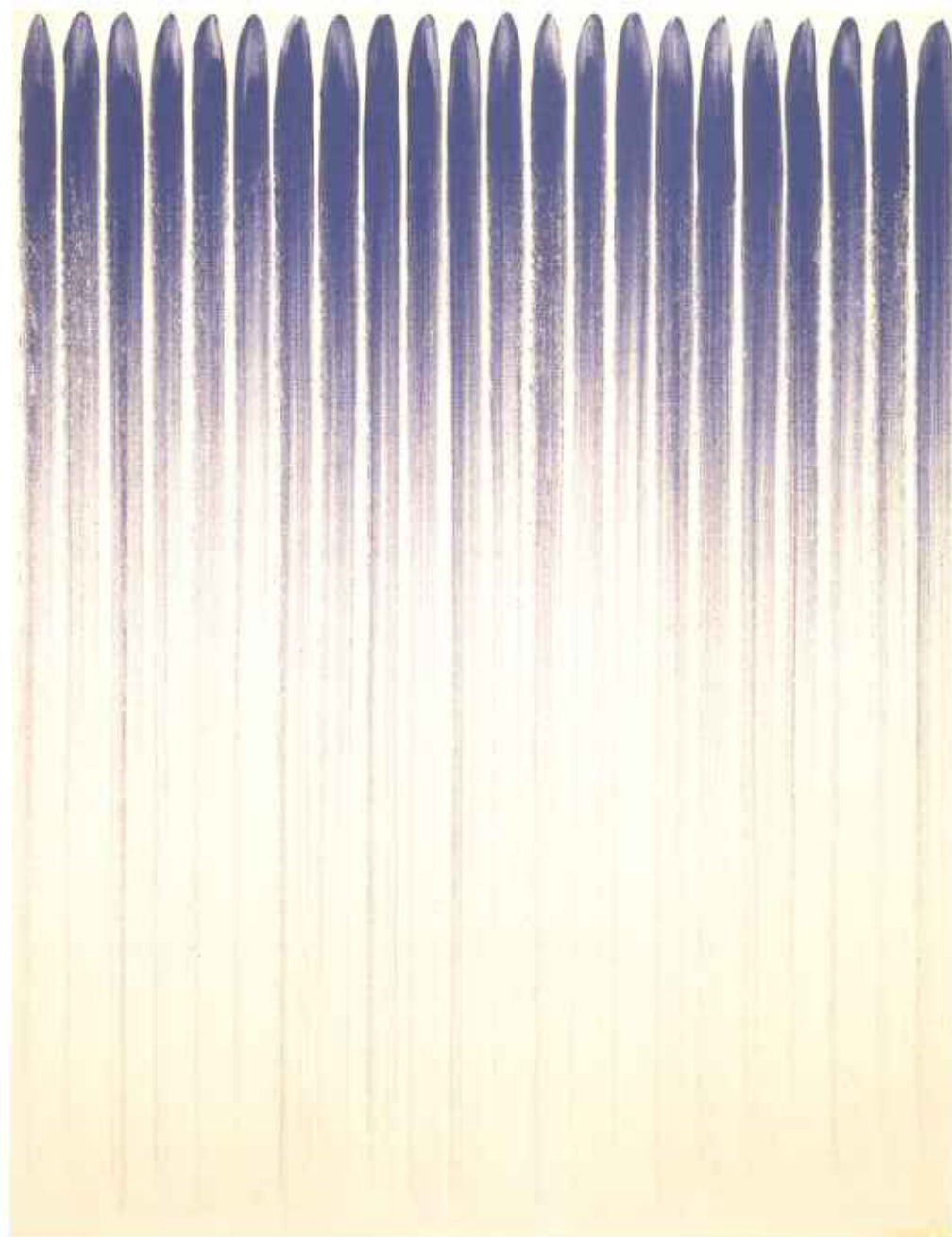


財団法人

日韓文化交流基金 NEWS

no.22



日韓共同研究フォーラム

2002年日韓国民交流年 記念事業・助成事業紹介

日韓青少年交流ワークショップ — 韓国語でノジマ2 —



The Japan-Korea Cultural Foundation

2002

目 次

- 2 表紙作品新シリーズ
「李禹煥—ペインティングを中心に」
表紙作家紹介および表紙使用作品
- 3 日韓共同研究フォーラム
第3次研究タムソウル総会
- 4 2002年日韓国民交流年
記念事業（7—9月）
助成事業紹介
 - オペラ『春香』公演を終えて 越水紀久子
 - マスキロッドプロジェクト
『真伎楽』韓国公演 野村万之丞
- 8 日韓青少年交流ワークショップ
—韓国語でノジマ2—
- 10 日韓文化交流基金事業報告
- 12 調査ノート
日本における韓国・朝鮮研究データ
ベース
研究者ディレクトリ 調査中間報告

表紙新シリーズ 李禹煥—ペインティングを中心に

日韓文化交流基金NEWSの表紙新シリーズ（1年間・4回）では、1950年代に韓国から来日し、1960年代以降日本をベースに国際的に活躍されている芸術家・李禹煥（リー・ウーファン）氏の70年代以降の作品から近作までをペインティングを中心にご紹介いたします。

……世界は私を越えてあり、不透明なものである。私のとった方向は、この不透明な他者を前にするとき、自己が絶えず濁ったり渡されたりしながら他者として生まれ変わるということだ。これは制作が一つの乗り越えであり、飛躍であることを示す。だから作品は、自己と他者が相互媒介を行う飛躍の場でなければならない。作品は、外界と内面の刺激的な出会いの場所でありたい。モダニズムに見られるような、自己の再現化である閉じた完結体を作ることではなく、自己と他との関係化による開かれた場所をアレンジメントすることが私の仕事である。（『余白の芸術』より）



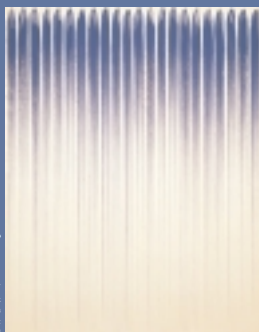
李禹煥
プロフィール

1936年韓国慶南生まれ。1956年、ソウル大学校美術大学を中退し、来日。1961年日本大学文学部哲学科卒業。1967年以降、前衛的な芸術表現を追求しながら国際的に活躍。「もの派」運動の柱として知られ、多くの国際美術展に出品、国内外の美術館などで個展。1969年に論文「事物から存在へ」で美術出版社芸術評論賞入賞。2001年高松宮記念世界文化賞受賞。前パリ国立エコール・ド・ボザール招聘教授、現在、多摩美術大学教授。

作品集『LEE UFAN』（1986年、美術出版社）、『LEE UFAN』（1993年、都市出版）、『李禹煥全版画1970-1998』（1998年、中央公論美術出版）ほか。

著書に、『出会いを求めて』（1971年、田畑書店、2000年、美術出版社）、『時の震え』（1988年、小沢書店）、『余白の芸術』（2000年、みすず書房）、詩集『立ち止まって』（2001年、書肆山田）、ほか。

写真提供：産経新聞



〈線より〉
145.5×112.5
岩彩、1980年
個人蔵
協力 東京画廊

日韓共同研究フォーラム 第3次研究タームソウル総会

2002年5月11日、ソウルの高麗大学校仁村記念館で、日韓共同研究フォーラム第3次研究タームソウル総会が開催され、メンバーが一堂に会して研究体制が正式にスタートし、各チームで研究方針について話し合われました。日韓共同研究フォーラムは、10年計画で日韓で人文科学・社会科学分野において共同で研究を進めていくプロジェクトです。本フォーラムでは3年をひとつの研究タームとして、研究と論文集の刊行を行っており、第1次、第2次研究タームを経て、今年度から2004年度までの第3次研究タームが始まりました。



ソウル総会 文化交流チームの濱下武志教授（左）と崔章集教授

このフォーラムは既存の研究ネットワークを尊重しながらも、単発的なセミナーの開催や相互訪問して意見を交換する学術交流からさらに進み、持続的な共同研究の場としての機能が期待されています。また、研究成果は日韓双方でそれぞれの言語の論文集の形式で発表され、次世代の研究の土台を作っていくことを目指しています。

第3次タームでは、小此木政夫慶大教授と崔章集高麗大教授を座長として、総勢72名の研究者が7つのチームのもとで研究活動を進めていきます。研究活動の一環として年2、3回程度のチーム会議が開催され、研究経過報告や討論を通じて研究をより精緻化していきます。

今年度から始動する第3次研究タームの7つのチームそれぞれの研究テーマ・研究の焦点は以下のとおりです。「歴史1」チームは北東アジア近代史における日韓比較研究：文明開化論、平和論、戦争論、国際関係論、「歴史



チーム別会議（政治・社会チーム）

2」チームは1945年を前後する日韓両国の相互認識・相互交流、「文化・社会」チームは社会の中心性と周縁性、「文化交流」チームは東アジア地域連関と文化交流、韓日文化交流発展の条件と展望、「市民社会」チームは日本と韓国の市民社会における政治過程に関する実証分析、「政治・社会」は日本政治の到達点、韓国政治の民主化と政治変動、「国際関係」チームは北東アジア国際秩序の共同体の構想です。

本フォーラムの事務局は、第1次研究タームより引き続き日韓文化交流基金と高麗大学校亜細亜問題研究所が担当します。

総会日程

5/11（土）

場所：高麗大学校仁村記念館

午前：総会

- ・開会辞 崔章集（高麗大学校亜細亜問題研究所所長）、小此木政夫（慶應義塾大学法学部教授）
- ・祝辞 熊谷直博（財団法人日韓文化交流基金理事長）、崔相龍（高麗大学校政治外交学科学教授）
- ・チーム別報告・メンバー紹介

午後：チーム別会議

晩餐会

研究メンバー（☆印＝チームリーダー、チームリーダー以下50音順または가나다順）

●歴史1 ☆渡辺浩（東大）、月脚達彦（東京外大）、並木真人（フェリス学院大）、松田宏一郎（立教大）、山田央子（青学大）、☆朴忠錫（梨花女子大）、金錫根（延世大）、金榮作（国民大）、朴鴻圭（高麗大）、咸東珠（梨花女子大）
●歴史2 ☆宮嶋博史（成均館大）、趙景達（千葉大）、徳永光俊（大阪経済大）、外村大（早大）、三宅明正（千葉大）、☆金容徳（ソウル大）、金哲（延世大）、朴賢勝（忠南大）、尹慶老（漢城大）、李元徳（国民大）
●文化・社会 ☆伊藤亜人（東大）、嶋陸奥彦（東北大）、津波高志（琉球大）、本田洋（東大）、真鍋祐子（国士館大）、☆韓敬九（国民大）、権肅寅（淑明女子大）、文玉杓（韓国精神文化研究院）、林慶澤（全北大）、黄達起（啓明大）
●文化交流 ☆濱下武志（京大）、飯島涉（横浜国大）、江夏由樹（一橋大）、白石さや（東大）、古田和子（慶大）、☆崔章集（高麗大）、

権赫泰（聖公会大）、金成國（釜山大）、元智妍（麗水大）、韓承美（延世大）
●市民社会 ☆小林良彰（慶大）、池田謙一（東大）、谷口将紀（東大）、森正（愛知学院大）、渡辺登（新潟大）、☆任燦伯（高麗大）、金炳局（高麗大）、金皓起（延世大）、朴賢郁（ソウル大）、朴喆熙（外交安保研究院）
●政治・社会 ☆服部民夫（東大）、秋月謙吾（京大）、五百旗頭真（神戸大）、伊藤光利（神戸大）、大西裕（大阪市大）、建林正彦（関西大）、☆張達重（ソウル大）、金哉翰（翰林大）、金台鎰（嶺南大）、宋柱明（韓神大）、李年鎬（延世大）
●国際関係 ☆小此木政夫（慶大）、神谷万丈（防大）、国分良成（慶大）、深川由起子（青学大）、横手慎二（慶大）、☆文正仁（延世大）、尹徳敏（外交安保研究院）、全在晟（淑明女子大）、河英善（ソウル大）、咸在鳳（延世大）

2002年日韓国民交流年

FIFAワールドカップ日韓大会の熱戦が繰り広げられる競技場の外では、
芸術や文化交流の日韓間のコラボレーションがかつてない広がりや深みを見せました。

サッカーの祭典の後も、文化交流の祭典はまだ続きます。

勝ち負けのない文化交流のフィールドで、あなたはいくつのゴール場面を目撃しましたか？

2002年日韓国民交流年記念事業（7－9月） 2002年5月末現在

6月7日～7月31日	ワールドワイドネットワークアート 02	ソウル・art center nabi、福井市美術館、IMA（京都精華大学表現研究機構映像メディア研究所）
6月9日～	宮島達男展（基金助成事業）	慶州・アートソングジェ美術館（6/9-8/25）、 ソウル・アートソングジェセンター（9/7-11/10）
7月2日～11日	日韓文化交流基金派遣山口県教員訪韓研修団	ソウルほか
7月2日～	日韓文化交流基金招聘韓国教員訪日研修団 初等学校（7/2-11）、高等学校（9/24-10/3）、中学校（9/24-10/3）	東京ほか
7月3日～11日	日韓アートフェスティバル2002 SAL VANILLA 「tatoooo」 及びワークショップ活動	ソウル・シアターゼロ
7月4日～8日	第7回日韓障害者国際交流東京大会	東京・安田生命アカデミア
7月5日～12日	日韓音楽祭2002～林英哲meets金徳洙～	東京厚生年金会館大ホール（7/5、7/6） 神戸国際会館こくさいホール（7/7） 広島郵便貯金ホール（7/9） 名古屋・愛知県芸術劇場大ホール（7/11） 大津・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール中ホール（7/12）
7月6日、7日	日・韓・中共同制作ファミリーミュージカル 「海を越える妖怪たち」（劇団えるむ）	横浜・かながわドームシアター
7月11日～23日	釜山8大学大学院生日本語・日本文化研修（基金助成事業）	麗澤大学、東京・狛江市
7月18日～24日	第16回ARTEX SEOUL 2002 現代美術国際交流展ソウル2002（JCAA）	ソウル・駐韓国日本国大使館公報文化院シルクギャラリー
7月19日～21日	日韓合作舞台劇「東亜悲恋」韓国公演	ソウル・アーツプールセンター
7月20日～	日韓児童国際交流（福岡県古賀市舞の里小学校）	安東市（7/20-23）、福岡県古賀市（8/24-27）
7月20日～28日	第14回国際児童青少年演劇協会総会・フェスティバル E.V.N.I劇団「Tai-Yo」パントマイムwithベルギー（7/21-22） 劇団キオ「魔女のフィフィIII—卵をとるのはだあれ？」（7/21-22） オペレッタ劇団ともしび「金剛山のトラ退治」（7/23-24） 劇団風の子九州「風の子あそびやとつびんちゃん」（7/27-28） 青年劇場「17歳のオルゴール」（7/26-27）	ソウル・文芸振興院文芸劇場小ホール、 国立劇場ダロルム劇場、世宗文化会館小劇場ほか
7月20日～8月22日	劇団風の子九州・劇団サダリ合同公演 マンナム～出会い～（7/20-8/22 世宗文化会館） ぴーかぶー（7/29-8/1 サムソン文化福祉財団子どもの家、世宗文化会館）	ソウル
7月20日～	2002両洋の眼展	岡山・大原美術館（7/20-9/1） 山梨・河口湖美術館（9/7～11/4）
7月21日～27日	日韓子どもワクワク体験交流事業（九州沖縄子ども文化芸術協会）	ソウル
7月22日～8月10日	イレブン・イレブン・コリア・ジャパン・コンテンポラリーアート2002 展 韓国展に引き続き、「韓国の現代美術の断面」として、東京の11の画廊で 個展形式で韓国の作家を紹介する	東京・ギャラリーQ、東京画廊、コバヤシ画廊、ギャ ラリー東京ユマニテ、ギャラリーGAN、なびす画廊、 ギャラリー山口、ギャラリーなつか、ビューイングル ームヨヨギガレージ、ギャラリーES（旧ミヅマアート ギャラリー）（7/22-8/3）、ギャラリー21+葉（7/29-8/10）
		韓国展の展示風景。 楊萬基のインスタレ ーション（省谷美術館）
7月26日～29日	日韓歌声交流35周年記念 徳島少年少女合唱団 第6回韓国公演 （基金助成事業）	ソウル・国民日報社内CCCM（7/27）

7月26日～29日	第22回日・韓親善少年サッカー大会（日韓親善京都城陽協会）	大邱
7月26日～31日	日韓合同授業研究会第8回交流会（基金助成事業）	京畿道・江華島周辺
7月26日～9月23日	「韓国の色と光」展	愛知県美術館
7月27日～28日	第9回シネマコリア上映会「フランダースの犬」	東京・国際交流基金フォーラム（7/27）、愛知芸術文化センター（7/28）
7月27日～31日	全国合鴨水稲会・2002年日韓農民交流	福岡、宮崎、熊本ほか
7月27日～8月3日	日・韓子ども遊び大会（社団法人青少年交友協会、野外文化研究所）	ソウル、天安、慶州、釜山
7月27日～8月4日	第6回アジア漫画展「私の隣人イメージ」	愛知・知立市中央公民館
7月28日～31日	藤原歌劇団・韓国オペラ団 日韓芸術交流推進オペラ公演「蝶々夫人」	東京・新国立劇場オペラ劇場
7月28日～8月1日	八王子そうれっしゃ合唱団韓国訪問演奏会（基金助成事業）	釜山、ソウル
7月22日～29日	日韓スカウトフォーラム派遣（ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟）	済州島ほか
7月29日～8月12日	日韓ガールスカウト交流事業	群馬、長野、富山、岐阜、東京
7月31日～8月14日	日韓ボーイスカウト交流事業	大阪、神奈川ほか
8月1日～8月14日	東アジア四大学フォーラム ソウル大学国際サマーキャンプ（基金助成事業）	ソウル大学校
8月1日～9月1日	横浜国立大学・ソウル市立大学校学生交流セミナー（基金助成事業）	横浜、ソウル
8月1日～9月10日	特別展「いま、話そうー日韓現代美術展ー」	大阪・国立国際美術館
8月2日～9月1日	韓国大衆文化展「ソウル・ポップ」	香川・高松市美術館
8月4日～8月18日	第18回日韓学生フォーラム（基金助成事業）	慶州、利川、ソウルほか
8月4日～8月21日	第17回日韓学生会議東京大会（基金助成事業）	東京ほか
8月5日～9日	蓬萊初等学校との姉妹校交流と壬辰倭乱の調べ学習事業（幸富秋日韓交流実行委員会）	晋州、泗川、閑山ほか
8月5日～17日	日本高等学校韓国語教師訪韓研修（韓国国際交流財団）	ソウルほか
8月6日～30日	大阪・釜山青少年友情の絆・帆船「あこがれ」セイルトレーニング	第1班（大阪→釜山8/6～19）、第2班（釜山→大阪8/17～30）
8月8日～11日	「はあてい古里・日韓ふれ愛の翼」交流事業（基金助成事業）	清州市
8月15日～22日	日韓朝青少年体験交流学校（NPO法人遊び塾ありギリス）	釜山、梁山
8月10日～15日	第7回日韓交流高校サッカー親善大会	広島
8月10日～19日	日韓国民交流の年「玄海まつり」（基金助成事業）	佐賀・有田町、西有田町、伊万里市、鎮西町、山内町ほか
8月12日～21日	第5回日韓環境ギャザリング（基金助成事業）	茨城県立さしま少年自然の家
8月16日～18日	世田谷パブリックシアター・音楽劇「ふたごの星」	韓国・国立劇場
8月16日～18日	第1回日韓親善吹奏楽演奏大会	韓国・国立劇場
8月19日～29日	名護屋・萬徳小中学生ホームステイ国際交流	佐賀、全羅南道
8月25日～ 2004年7月20日	わらび座・日韓交流ミュージカル「つばめ」	全国各地、ソウル
8月28日	日韓記念庭園開園記念イベント	静岡・熱海梅園韓国庭園ほか
8月29日～9月1日、 2003年1月9日～ 1月12日	日韓合同セミナー「日韓の相互理解における普遍性と特殊性」（基金助成事業）	韓国外国語大学校、国際基督教大学
9月3日～5日	アリスフェスティバル 02 第6回アジア小劇場演劇ネットワーク東京公演 日・韓合同公演 タイニイアリス+アジア小劇場演劇釜山事務局 「家族の神話」	東京・タイニイアリス
9月3日～9日	国際青年演劇センター・ドラマ「青桐の樹の下で」 ー広島語り部沼田鈴子、世界巡礼の旅ー韓国公演 （基金助成事業）	ソウル・国立劇場
9月3日～12日	日韓文化交流基金派遣日本大学生訪韓研修団第1陣	ソウルほか
9月4日～8日	青年団国際演劇交流プロジェクト2002 劇団木花公演「I Love DMZ」	東京・こまばアゴラ劇場
9月7日～10月27日	「心のやきものー李朝」展	山口県立萩美術館・浦上記念館
9月9日～10日	コンヴェルス・ムジク韓国公演	ソウル大学校、クムホアートホール
9月10日～	日韓文化交流基金招聘韓国中学生訪日研修団 第1陣（9/10-14）、第2陣（9/24-28）	福岡、太宰府、長崎
9月17日～21日	韓国書道家羊田韓迅招待書芸展	東京・韓国文化院ギャラリー
9月17日～23日	日・中「琵琶楽」の韓国への紹介事業（基金助成事業）	ソウル

オペラ『春香』公演を終えて

オペラ『春香』上演実行委員会事務局長 越水紀久子

去る、4月19日と4月21日に、54年ぶりにオペラ『春香』の公演を、大盛況のうちに終了しました。この、オペラ『春香』は、朝鮮半島の古典文学『春香伝』を基に、高木東六氏が作曲を依頼されたもので、1948年に上演されて以来、54年ぶりにこの度横浜の神奈川県民ホールにて再び上演され、市民の夢がかないました。

奇しくも、韓日国民交流年の記念すべき年の催事であり、韓日共催のワールドカップサッカーの盛り上げにお役に立てた公演となり、大変嬉しく思っております。

このオペラ上演の成功は、市民の発案を受けて、

- ①きちんとした組織作りをしたこと。すなわち、上演協議会、実行委員会を立ち上げ、会長の優れたイニシアチブにより、事務局長はじめ、メンバーが一丸となって、取り組みました。
- ②春香伝という朝鮮半島の古典文学がよかったこと。この機会に、日本人が



春香と夢龍のアリア
(鏑山英次氏撮影)

多数『春香伝』を知り、理解しました。

③高木東六氏の曲が美しかったこと。アリラン、トラジの旋律が多く取り入れられ、演ずる人および観客の魂を揺さぶりました。

④スタッフ、キャストともに一流の人たちを選びました。それに公募による市民参加の合唱団を、新たに構成しました。市民参加は、事務局をはじめあらゆるところでありましたが、160名の市民合唱団の担うところは大変に大きいものでありました。

⑤事務局、スタッフ、キャスト等韓日合同で構成し、協力しあったこと。文化の違いがあったが話し合い、オペラ『春香』を成功させようと心をひとつにでき、交流がもてました。

⑥韓日の公的機関、諸団体、企業、市民、県民、国民から多くの基金をいただきました。特に韓国政府の助成金をいただいたことに感謝いたします。



春香が使道に虐げられるシーン

以上今回のオペラ『春香』上演は韓日両国の大いなる文化的財産であり、深い友好と相互理解による、未来永劫のパートナーシップができたと思います。21世紀こそ、韓日間の文化交流と友好親善を推し進めなくてはならないと強く感じました。

最後になりましたが、大韓民国大統領夫人李姫鎬様をはじめ、韓国国際交流財団理事長李仁浩様、駐横浜大韓民国総領事鄭貞儉様の温かいメッセージをいただき、厚く御礼を申し上げます。

また、韓国大使館、韓国文化院、日韓文化交流基金、在日本大韓国民団のご協力と、金梅子先生および李英姫先生のご指導、多くの韓国関係者のご支援に感謝いたします。

●オペラ『春香』（全4幕）

4月19日/21日 神奈川県民ホール

指揮：本名徹次

管弦楽：神奈川フィルハーモニー管弦楽団

演出・美術：荒井間佐登

監修・振付：金梅子

衣裳：李英姫

【キャスト】

春香：腰越満美（ソプラノ）

夢龍：崔相虎（テノール）

直野資（バリトン）/ 秋葉京子（アルト）/ 半

田美和子（ソプラノ）/ 末吉利行（バリトン）/

高橋啓三（バス）/ ほか

助成事業紹介

マスコロードプロジェクト『真伎楽』韓国公演

野村万之丞

昨年の秋にスタートしたマスコロードプロジェクト『真伎楽』はいよいよ海を渡ってアジアへ広がることとなりました。その第一弾が本年4月5日、6日にソウルにて行われた日韓国民交流年記念事業の目玉でもある『真伎楽』公演でした。

「伎楽」はかつて日、中、韓をはじめとするアジア諸国が、United States of Asia アジア合衆国としての共通の考えをもっていた時代、今から1500年ほど前、百済の首都扶余からきた味摩之（みまし）によって仏教とともに伝えられたということから企画しました。鎮護国家芸能として寺社などで盛んに上演されましたが、やがて平安後期に減んでしまい、わずかにその痕跡を伝える伎楽面などが正倉院や法隆寺に存在するのみでした。私は伎楽をアジアの俳優たちと今日的に再生して新しく生み出すことが21世紀の日本とアジアのあり方に繋がると考えました。

「超過去は超未来だ」。情報技術をともなう21世紀というグローバルな時代には1500年前の文化共有をしていたアジアが良く似合うと思った私は21世紀のシルクロードを創るべく、それを仮面の道『マスコロード』と名付けました。『真伎楽』公演を東京からスタートさせ、奈良、大宰府を通して海を渡り、韓国、北朝鮮、中国、いずれはインド、パキスタン、トルコ、ギリシャを経て西洋へと逆流させて、文化の恩

返しをしたいと思い立ったのがこのマスコロードプロジェクトです。

『真伎楽』はパレードで始まります。人は道を歩くことによって共通の心を得ようとしています。また、遠い世界から来訪者たちが幸福という宝や過去という素晴らしい知恵を背負って現れます。仮面をかけて黒白の衣装を身にまとい、太鼓やラッパを響かせパレードをしながら、国境や人種や性別を越えていきます。道を清める「治道」、ヒンドゥー教の神鳥ガルダである「迦楼羅」、呉の国の王「呉公」その妻「呉女」僧侶「婆羅門」ら14種24面の仮面をかぶった登場人物たちが、過去現在未来が一体となった世界をくりひろげます。

かつて、聖徳太子と味摩之が行ったように、アジアのアーティストたちに混ざって、扶余では100人、ソウルでは120人の韓国と日本の子ども達が市民参加として加わりまさに国民交流そのものであったと思いました。ソウル公演は景福宮の国立民俗博物館前に大きなセットを作り、韓国各TV局、新聞各社勢ぞろいの中満員の観客の前で上演することができました。

この公演には多くの皆様のお力をいただきました。日本側では、日韓協力委員会会長中曽根康弘元首相に名誉実行委員長を、実行委員長は日韓議員連盟幹事長、額賀福志郎元防衛庁長官にお願いいたし、韓国側は自民連総裁の



始まりのパレード



地の章……呉公、呉女物語

金鍾泌元首相が名誉実行委員長を、また、金学元国会議員が実行委員長をお引き受け下さいました。また、国際交流基金、文化庁アーツプラン21、日韓文化交流基金の多大なるご援助をいただきました。

日韓文化交流の年、本当に良いことができたこと心よりお礼申し上げます。そしてこれからも、このプロジェクトを進めていくことが、皆様のお気持ちにお応えすることになると思います。



のむら まんのじょう

300年の歴史を持つ加賀前田藩お抱えの狂言、野村万蔵家八代目当主。重要無形文化財総合指定。国家行事のプロデューサーをはじめ、行政コンサルタント・大学教授・演出家・執筆家・芸能考証者として多岐にわたり活躍中。

日韓青少年交流ワークショップ

－韓国語でノジマ２－

日韓文化交流基金では、3月9日～10日の2日間、韓国理解促進事業として、日韓青少年交流ワークショップ－韓国語でノジマ２－を開催いたしました。この行事は、韓国語を勉強している日本の高校生と東京韓国学校高等部の生徒が共同生活を通して相互理解と友情を深め、同時に日本の高校生に韓国語学習への新たな意欲を高めてもらうという趣旨の下、日本の高校

で韓国語を教える先生方の組織である「高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク」と韓国企業などの日本駐在員の子弟が多く在籍する「東京韓国学校」の協力を得て昨年3月に初めて開催されたものです。

2度目となる今回の行事は、昨年と同じ横浜市金沢区の野島青少年研修センターを舞台に、北は北海道から南は鹿児島まで全国16の高校から集まった31人の日本側高校生と東京韓国学校の学生18人の計49人の学生が参加し、韓国人留学生（大学生・日本語学校学生）のチームリーダーの指導の下、原則として韓国語でコミュニケーションを取りながら熱い2日間の合宿生活を送りました。

今回の行事のメインイベントは、班対抗で行った演劇の発表会でした。演劇の主題は日本、韓国でともによく知られている「金の斧、銀の斧」を脚色した「うそつき」。韓国朝鮮語教育ネットワーク東日本ブロックの先生方が韓国語で作上げた一つの脚本を、6つの班に分かれた高校生たちが、それぞれに工夫を凝らして発表しました。

1日目の夕方に練習を始めて翌日午前中に発表というハードなスケジュールでしたが、最初はセリフの読み合わせもおぼつかなかった日本側の参加者たちも、韓国側学生やリーダーに励まされながらそれぞれの役をこなし、2日目の発表会では本当にバラエティー豊かな「金の斧、銀の斧」が発表されました。

事業実施後のアンケートを見ると、今回の行事では、日韓の学生間の交流のみならず、韓国語を勉強している日本の高校生たちが、それぞれの目的を持って学ぶ全国の仲間と出会い、互いに刺激を受けるという成果も得られていたようです。また、予定されていた行事以外にも、両国の学生が深夜まで討論を行ったり、それぞれの生活について話し合ったりと、非常に中身の濃い交流が行われていました。わずか2日間の出会いでしたが、非常に充実した1泊2日間であったのではないかと思います。今回の参加者の皆さんがますます互いの国への関心と、理解を深めてくださることを願ってやみません。

日 程

●3月9日（土）

11：30	集合、入所式
11：50	開会式 ・開会のあいさつ ・両国生徒代表あいさつ ・参加者自己紹介
12：30	昼食
13：20	行事 レクリエーション 1. 自己紹介ゲーム 2. ボール送りゲーム 3. クエスチョンゲーム
14：50	行事 韓国語で歌おう
16：20～16：50	行事 演劇オリエンテーション1
18：30	夕食（キムチチゲ、海鮮チヂミ、豆腐キムチ、韓国風サラダ）
19：30	入浴・休憩
20：30	演劇オリエンテーション2
21：00	班別活動（演劇発表準備）
23：00	就寝

●3月10日（日）

7：00	起床 洗面
7：15	朝食
8：45	掃除
9：00～10：50	班別活動（演劇発表準備）
11：00	行事 演劇発表会
12：40	昼食
13：00	審査結果発表・閉会式 ・審査結果発表 ・閉会のあいさつ



演劇発表会

参加した高校生のアンケートから

◆日本側参加者

この交流会で一番印象に残ったのは劇です。練習時間が短くてセリフを覚えたり、演技を覚えたりするのが難しかったけれど、すごく楽しかったです。本番では、緊張して頭が真っ白になってしまいましたが、班のメンバーの助けにより、頑張ることができました。

私は韓国語が話せる在日です。でも日本、韓国の文化をまだ知りつくしたとは言えません。今回の「韓国語でノジマ2」で私は日本、韓国の高校生のことを知ることができました。同じ年頃の子たちと、今だからこそ、十代だからこそ感じた格別な感動や友情の形、そして忘れられない思い出を作ることができました。言葉には関係なく私たちは夢でいっぱい将来のことで悩む同じ高校生でした。お互いに持つ文化や歴史、国民性は少し異なるけれどもそれは時間が過ぎていくとともに理解し楽しい時間を過ごすことができました。

私は韓国に興味を持ち、韓国語を習いはじめてもうすぐ2年が経つ。習いはじめてから1年も経たないうちに参加した昨年のプログラムの時より上達したことを感じる事ができてうれしかった。来年もこのようなプログラムがあったら是非参加したいと思う。そしてこれからも友好関係が続いていくことを願う。

「うそつき」で「ユミ」の役を自分なりに演じることができて満足でした。

研修会の数日前に台本をもらい、何回も何回も読んでみました。韓国語を勉強するいい機会だからと思い、セリフの多い「ユミ」の役に立候補しました。



班別に演劇発表の準備を行った

学校で勉強した言葉とはちがう言い回しや初めて耳にする文体などがあり、とまどいしましたが、とてもいい経験ができたと思います。

台本を何回も読み暗記できたおかげで、今でも「うそつき」のセリフを思い出すことができます。とても貴重な経験といい思い出ができたと思います。

◆韓国側参加者

何よりも重要なのは私たちの心の中にお互いに対するいい記憶と韓日交流に対する思いが残るだろうということ。はじめの心配していた気持ちは消えて、それなりによくやり遂げたと自分自身を誉めなくなった。

たった2日間の国際交流のために、日本の各地から学生たちが来たのには本当にびっくりした。大部分の学生たちは先生と一緒にではなく、個人で来ていた。動機がなんであれ私たち韓国の学生との交流をするために遠いところから来てくれた日本の学生たちに拍手を送りたい。演劇の発表のためにみんなが一緒に考え、討論し準備した時間がとても意義があったことだと思います。日本の学生と話した日本の学校の話、韓国の話、食べ物の話などは忘れられないです。日本の学生が演劇の

台詞を覚えるために練習する姿、台本に発音の方法を書く姿が印象深かったです。

韓国と日本の学生たちが自然に付き合ういい機会でした。今回の行事を通じて日本の学生と付き合うことができとても良かったです。話をしたり、いろいろな遊びをするとき、そして演劇の練習をしながら日本人と韓国人の情緒的な差、考え方の差が分かりました。このように韓国と日本の表面的なことではなく、内面的なことが分かり、より近づいたような気がします。

演劇の練習をするとき、夜遅くまで台詞を覚える姿や、自然で正確な発音をするためによく質問したこと、意思疎通のために本を調べながら話す姿がとても印象的でした。

初めは日本の学生と親しくなることはできないと思ったが、演劇も一緒にやり、ゲームもしながら、後で別れるときはとても名残惜しかった。機会があったらまた国際交流に参加したいし、韓国語を一所懸命に勉強する日本の学生に負けずに私も日本語を一所懸命に勉強しようと思った。

2002（平成14）年度 下半期助成申請について

平成14年度下半期（10－2003年3月）に実施される青少年・草の根交流、国際会議・シンポジウム、芸術交流などを対象とする人物交流分野の助成申請を、**7月1日から8月1日まで**の期間で募集いたします。申請案内および申請用紙は、基金にて配布・郵送を行っているほか、基金のウェブサイトからもダウンロードできます。申請書は締切日必着で基金まで郵送してください。なお、申請書類の提出に先立ち、事業計画について助成担当者までご相談されることをお勧めします。

日韓歴史共同研究委員会発足

5月25日（土）、ソウル・シェルトンウォーカーヒルホテルにおいて、「日韓歴史共同研究委員会」の第1回会合

■日本側委員

委員長 三谷太郎（成蹊大）

委員

【第1分科－古代史】佐藤信（東京大）、濱田耕策（九州大）

【第2分科－中近世史】田代和生（慶應大）、吉田光男（東京大）

【第3分科－近現代史】小此木政夫（慶應大）、北岡伸一（東京大）、原田環（県立広島女子大）、森山茂徳（東京都立大）

■韓国側委員

委員長 趙東杰（国民大・名誉教授）

委員

【第1分科－古代史】金泰植（弘益大）、金鉉球（高麗大）、盧重国（啓明大）

【第2分科－中近世史】鄭玉子（ソウル大）、孫承喆（江原大）、趙珧（高麗大）、鄭求福（韓国精神文化研究院）

【第3分科－近現代史】李萬烈（淑明女子大）、俞炳勇（韓国精神文化研究院）、姜昌一（培材大）、金長権（ソウル大）

が開催され、正式に委員会が発足しました。日韓の歴史学者により、日韓両国史に関する共同研究を古代史、中近世史、近現代史の分野で推進していくなどの基本的な方針が確認・合意されました。

本委員会は、昨年10月の日韓首脳会談において、正確な歴史事実と歴史認識に関する相互理解の促進が重要であり、そのために専門家による協議の場を設けることに一致したことを踏まえ、日韓関係史に関する共同研究会として新たに設置されたものです。

今後、分科会の成果を土台とし、第2回全体会合を開催することで合意がなされました。また、本委員会の研究成果は、日韓関係史の理解の参考となるよう、史料集、論文集などの形態で刊行される予定です。



日韓文化交流会議

5月17日（金）、韓国・慶州市の慶州ヒルトンホテルにおいて、日韓文化交流会議第3回全体会議が開催されました。日韓文化交流会議は、1999年3月の日韓首脳会談でその設置が合意され、同年6月に発足した両国の文化芸術分野の知識人からなる協議体です。

これまで、日韓間の文化・国民交流活性化のため様々な提言を行ってききましたが、3度目となる今回の全体会議では、両国古美術の交換展示会、宮中音楽交流演奏会、女性画家の作品の展覧会など、これまで会議において提案されてきた交流事業の実施・検討状況が報告されるとともに、今後実施すべき新たな文化交流事業について各委員から意見が出されました。

また、サッカーワールドカップ大会終了後の両国間国民交流の方向性を示す「日韓文化交流のための提言」を作成、今年夏以降に発表することを目標に意見交換を行っていくことが合意されました。



慶州・仏国寺にて

韓国図書翻訳出版事業－ 「韓国の学術と文化」シリーズ新刊

以下の図書が韓国図書翻訳出版事業の一環として法政大学出版局から刊行されました。

趙惠貞著、春木育美訳『韓国社会とジェンダー』（原題『韓国の女性と男性』、1988年刊行、文学と知性社）

気鋭の文化人類学者・フェミニズム研究者による韓国社会論。韓国社会に

おける男女の生きざまと家族のありようをグローバルな視点から分析・検討し、男女の自立と共生により植民地的近代性を克服する方法を模索する。男性社会で疎外され、沈黙を強いられてきた女性は、その「周縁性」と「他者性」のゆえに既成の社会・文化を根底から変革する力をもつとして、「女性解放運動」の普遍的な問題とは何かを問い直す。とくに済州島の海女社会での先駆的フィールドワーク「発展と低発展—済州の海女社会の性体系と近代化」は、西欧のフェミニズム理論を相対化し、「もうひとつの文化」を提示する力強いメッセージに満ちている。



鄭勝謨著、朝倉敏夫監修・林史樹訳『市場の社会史』(原題同じ、1993年刊行、熊津出版)

有形無形の「もの」の交換により人々を空間的・時間的に結びつける市場は、韓国では今なお生活にしっかり根づいている。そうした市場の歴史的な変遷と実態を、そこで生活する人々の視点で描いた本書は、朝鮮半島の在来市場についての貴重な記録・研究であり、市場の観察を通して韓国社会を浮き彫りにした斬新な試みでもある。

著者は歴史学、文化人類学をはじめ、地理学、経済学、社会学など周辺諸分野の成果をも総合して半島における市場の成り立ちを平易に説き、それが社会の中で果たしてきた役割を明らかにする。社会史の貯蔵庫、民俗の宝庫である市場については、これまであ

まり研究の対象となることがなかった。市場の歴史を体系的にまとめ上げた本研究は、交通史・地域史研究はもとより、東アジアの文化史研究にも大いに資するものである。韓末期から現代にいたる貴重な写真・絵画資料は読者の理解の助けとなる。

報告書

以下の事業の報告書が完成しました。基金図書センターでご覧ください。

- ・ **訪韓学術研究者論文集 第2巻 (2000年4月—2001年5月)**
- ・ **日本大学生訪韓研修団**
- ・ **青少年・教員交流招聘事業訪日研修団アンケート 2001年度 I—III**

理事会

4月5日に第30回理事会が開催され、2002年度の事業計画案および予算案が承認されました。6月7日には第31回理事会が開催され、2001年度の事業実績および決算が承認され、役員の改選が行われました(任期2年)。役員の主な変動は次の通り。

- ◆ **顧問** 死去 齋藤英四郎(4月22日)
- ◆ **特別顧問** 新任 沈壽官(4月5日付)
- ◆ **理事(事務局長)** 新任 堀泰三(6月7日付) 退任 久一昌三
- ◆ **理事** 新任 寺西正司(全国銀行協会会長、4月23日付)、鈴木孝男(日本自動車工業会副会長、5月16日付)、谷口一郎(日本電機工業会会長、5月30日付) 退任 山本恵朗、奥田碩、西室泰三

訪日団

団体名	計	男	女	期間
教員(初・中・高)	20	12	8	5/21—5/30

訪韓団

団体名	計	男	女	期間
奈良県教員	20	11	9	5/14—5/23

日本における韓国・朝鮮研究データベース 研究者ディレクトリ 調査中間報告

基金では現在、日本における韓国・朝鮮研究の研究史的把握と研究動向調査を目的として、研究情報に関するデータベース作成に取り組んでいます。この一環として2001年度は「研究者ディレクトリ」作成のための調査を行いました。

研究者ディレクトリは、国内の大学・研究機関に所属する大学院博士課程以上の研究者と、韓国の大学・研究機関に所属する日本出身研究者を対象としています。事業開始後は既存の研究データベースなどから、人文・社会科学分野において韓国・朝鮮研究に関わる研究者の基礎データを抽出し、2001年9月から10月にかけて、調査票の郵送によりデータの確認と追加の作業を行いました。本事業にはおかげさまで非常に多くの方々のご理解とご協力をいただき、合計877名からの回答があり、そのうち、国内749名、韓国65名、合計814名について有意のデータが得られました。この調査結果については、2002年夏のディレクトリ刊行とインターネット上でのデータベース公開をめざし、現在、作業を進

行中ですが、ここでは中間報告として、いくつかの特徴的な統計結果を紹介します。

まず研究者の所在を地域別に見ると、関東地方が大学数の多さを反映してかもっとも多く、40%近い数値を示しています。地域的な状況を反映して、九州・沖縄に研究者が比較的多いというのも、韓国・朝鮮研究における特徴であるといえるでしょう。

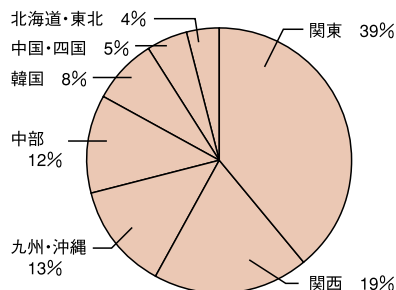
また、研究者の所属機関は約半数が私立大学というデータが得られました。国公立大学、短大を合わせると9割以上の研究者が大学に所属していることになり、日本の韓国・朝鮮研究は大学が主に担っていることが数字から読み取れます。また、グラフには表れませんが、職種から見ると大学教員や大学院生のほかに、地方自治体の職員や図書館司書、NPO職員、美術館・博物館の学芸員など多様な職種の研究者が存在し、韓国・朝鮮研究が大学外においても着実に市民権を得てきている様相がうかがえます。

さらに、研究領域から見ると、「史学」（韓国・朝鮮史、日本史、東洋史

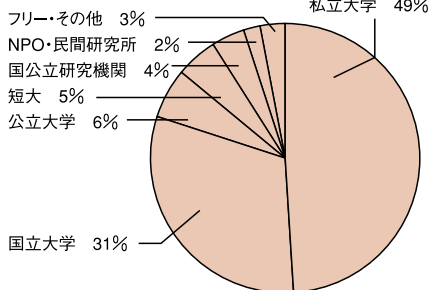
ほか）を専門とする研究者がもっとも多く、ひとつの中心分野を形成しています。2位の「心理学・社会学・教育学・文化人類学」の内訳を見ると、心理学が16名、社会学が73名、教育学が62名、文化人類学が109名であり、この他にジャーナリズム・マスコミ研究、比較文化研究を領域として選択した研究者のべ人数が349名となっています。3位の「語学」では、韓国・朝鮮語学と言語教育を専門領域とする研究者が中心となっていますが、個別研究領域間のクロス・リファレンスを行うと、日本語学との対照研究を行う研究者が比較的多く見られました。「経済学・経営学」では経済政策が、「法学・政治学」では国際政治学が研究領域として多く挙げられています。

研究者ディレクトリでは、調査で回答が得られなかった韓国・朝鮮研究者については、国立情報学研究所の研究活動資源ディレクトリのデータにより補完し、所属機関や研究分野、研究対象地域や対象時代によるインデックスを付して刊行する予定です。

◆研究者・地域別



◆研究者・所属機関



◆研究分野（複数回答）

